

2025 年 5 月 23 日

株主との対話の状況について

東映株式会社

■対応者

当社では、I R・S R業務は、原則として経営戦略部広報室が担当しております。また、対話のテーマ等に応じて、代表取締役、経営戦略部担当取締役、経営戦略部長及び経理部長等の適任者が出席し対応しております。

第 2 四半期、本決算時においては、決算説明会に代表取締役社長及び専務取締役が出席し、決算説明及び株主・投資家からの質問対応をいたしました。

■対話を行った株主・投資家

国内外のアナリスト、機関投資家のファンドマネージャー及び議決権行使担当者等と対話を行いました。

〔対話を行った回数〕

2024 年 3 月期 計 83 件（内、国内 52 件/海外 31 件）

2025 年 3 月期 計 114 件（内、国内 83 件/海外 31 件）

■経営陣へのフィードバックの状況

株主・投資家との対話の状況について、定期的に取り締役会に報告しております。

■株主・投資家との対話の取組み

- ・ 個別 I R、S R の受付対応
- ・ 決算説明会（第 2 四半期・本決算）
- ・ 施設見学会（東京撮影所、京都撮影所）
- ・ 決算短信説明資料（日・英）
- ・ 決算短信（日・英）
- ・ 適時開示（日・英）
- ・ 株主総会
- ・ 招集通知（日・英）※英語は狭義および参考書類のみ
- ・ 有価証券報告書（日・英）
- ・ 公式 WE B サイト（日・英）
- ・ 公式 L I N E I R

■株主・投資家との対話の主なテーマ

①ガバナンスについて

- ・ 親子上場
- ・ 買収防衛策

②中長期ビジョンについて

- ・ 成長戦略、映像事業強化や海外展開の具体策
- ・ 成長投資の内容（映像、不動産）

③資本効率について

- ・ PBRの改善策、ROE向上策
- ・ キャッシュアロケーション、配当性向
- ・ 政策保有株式の縮減、保有不動産の活用

④業績について

- ・ 各セグメントの事業環境、業績の見通し
- ・ 映画のラインナップ、IP戦略、海外戦略
- ・ バーチャルプロダクション
- ・ 東映太秦映画村のリニューアル計画
- ・ 東映会館のリニューアル計画

⑤その他

- ・ 株主還元（配当、自己株取得）
- ・ 映適（日本映画制作適正化機構）取引ガイドラインのコストへの影響
- ・ 人権問題への対応
- ・ 女性管理職比率の状況
- ・ 統合報告書の開示
- ・ 生成AIへの対応
- ・ M&A

■対話を踏まえた主な取り組み

- ・ 株主還元の充実
 - 特別配当の実施
- ・ 資本効率の改善
 - 政策保有株式の縮減、不動産再開発の推進
- ・ サステナビリティに関する取り組み

- 人財投資の促進
- 映適（日本映画制作適正化機構）取引ガイドラインへの対応
- 東映グループ人権方針、東映グループ取引方針の策定・公表
- マテリアリティの特定と価値創造プロセスの策定・公表
- 「ハラスメントゼロ宣言」の公開
- ・ 株主・投資家との対話の促進、情報開示の充実
 - 施設見学会（東京撮影所、京都撮影所）の実施

以 上